

段級位制度大改革案

最終改革委員会:平成18年
(公財) 日本棋院:経営企画会議
改訂:令和8年7月:酒井 猛

「段級位」は実力を証明する権威と信頼が命！

日本棋院の貴重な特権である「段級位の認定」の権威回復が日本棋院再建の根本！

プロ界の段位制度は最高位である九段が二割ほどもあり、この権威に重要なピラミッドは既に崩壊しており、最早、厳格な昇段基準のみでの改善は不可能な状態であります。

しかし、重要な最高位の九段を下げるわけにはいかないという問題があります。

一方、アマ界における一般段級位は、当初からの不合理な手合割りにより、碁会所、ネットなどでの一般対局も合理的な点数制に変わってしまいました。 ※ 但し、点数制には対局による実力向上が反映されない重大問題がある

また、アマ段位の権威である実力認定は本来、棋士との厳格な手合割りに基づく対局で行われるべきことですが、その合理的かつ厳格な手合割りとして、プロ段位とアマ段位が別である事は好ましくありません。

そもそも、プロ界とアマ界で異なる実力基準は囲碁と将棋だけであり、一般者には理解されがたい事です。

これらの問題解決がプロアマ一本化による「段級位制度大改革案」です。

まず、プロ段位を八段と九段に圧縮して、アマ段位は初段（現三段程度）～七段により段位制度を一本化します。

次いで、全段位に4階級を設け、現九段は九段一位～九段四位に分散し、当初は外郭の大手合審議委員会などを設けて実績評価で決めます。

以上から、九段の4階級分散により、既得の超インフレ段位を下げる事無く、プロ界の段位制度に重要なピラミッドを見事に構築できます。

現在の八段～初段は逆に八段のみに圧縮し、二段単位に八段一位～八段四位に納めますが、この際における偶数段位者の不公平には対策を用意してあります。

アマ界である七段以下も4階級ですが、この最大の意図は「一階級差：コミ3目」、「一段位差：置き石一子」による合理的な手合割りの構築にあります。

なお、一段位差は4階級差であり、コミ12目に相当します。

別の企画書である「新検定対局制度案」における棋士との検定対局の手合割りも、このプロアマ一本化による階級差で行いますので、実力認定が厳格であり、合格（勝利）による新段位免状には絶対的な権威があります。

段級位制度の問題点と改善方法

「段級位の認定」と「免状発行」は
日本棋院の「貴重な特権」
腐らせた「貴重な特権」を生き返らせる事が
日本棋院再建の根本！

問題点と改善方法 (段級位制度)

問題点

プロ段位制度

プロとアマ分離の実力基準
(根本的な問題点)

- 一般社会に理解され難く、一般段位免状に権威が希薄
- アマ有段者による有料による積極的な囲碁普及活動が期待できない
(日本にある沢山の芸道で、プロアマ分離の実力基準は碁と将棋だけ)
- 世界の流れに逆行している(プロアマ一本化対局のネット囲碁対局)

権威失墜
(プロ碁界の魅力喪失)

- 最高位の九段が多すぎる(現役棋士の2割以上)
※ 現昇段規定でも改善に30年ほどが必要
- 段位差に対応しない実力
 - 同じ九段で実績と実力が大きく異なる
 - 初段～九段で実力差が少ない
- 引退昇段・逝去昇段による段位権威の低下
(日本棋院創立以前の歴代名人時代には存在しない)

アマ段級位制度

段位免状に権威がない

実力認定が多様で甘いものが多く、囲碁界から信頼を失っている

段位免状が超高額で有料指導の資格も無い

不合理な手合割り
(1段級位差が定先で2段級差が2子)

粗い手合割り
(1段級位:置き石一子)

- 基会所で点数制が使われている
(段級位制度の衰退)
- ネット対局でレーティングが使われている
(段級位制度の衰退)

改善方法

※ 初提唱者は瀬越憲作九段
(約60年ほど前)

プロアマ一本化段級位制度
(プロ八段以上／アマ七段以下)

※ 瀬越案はプロ七段以上／アマ六段以下

プロ段位制度の権威回復
(実力実績に見合う段位)

- 九段を4階位に分割
(実力実績によるピラミッドの形成)
- 初段～八段を4階級に短縮
(一般社会で理解され、七段以下の棋士が地位向上)

※ 段位短縮による不公平は現昇段規定で調整(別紙)

アマ段位制度の権威回復
(検定対局で実力取得)

※ 会員の大きな特典

- 有料指導資格のある新段位免状でアマ段位の権威復活
- 合格者に超高額免状を賞品として、ほぼ無償配布

段級位四分割の新段級位
(旧大手合の手合割りに準拠)

※ 瀬越案は三分割案

合理的な手合割り
(アマ囲碁界で手合割対局が復活)

きめ細かな手合割りの変更

- 基会所で点数制が不要になる
(段級位制度の発展)
- ネット対局でレーティング制が不要になる
(段級位制の発展)

書道・茶道・華道などと同様にする

段位制度改革案 (実力基準のプロアマ一本化)

アンケート結果(平成18年12月)

全国支部長:賛成:39%、反対:33%
週刊基: 賛成:44%、反対:31%

※ 支部長の全員が高段免状の取得者であり、新免状発行に極めて消極的である事を勧案する必要がある。
※ 「週刊基」の購読者も、他の囲碁愛好者に比べ、高段免状取得者の比率が高いことを勧案する必要がある。

※ 当初の九段一位～三位は「大手合審議委員会」を設け、これまでの実績から決定

※ 以降は「新大手合」の最終ランキングで決定
(「大手合審議委員会」の確認が必用)

※ 引退昇段・逝去昇段の撤廃

実力基準の再建!

新段級位
(段級位四分割)

棋士新段位

現九段

新九段
(棋士)

- 一位: 当初3名以内
- 二位: 当初10名以内
- 三位: 当初30名以内
- 四位: 当初70名程度

※ 不公平是正は別途参照
(二段単位の同段階位)

現八段～現初段

新八段
(棋士)

- 一位: 現八段、現七段
- 二位: 現六段、現五段
- 三位: 現四段、現三段
- 四位: 現二段、現初段

※ 合格者に新段位免状を無償授与

実対局による実力取得
(新検定対局制度)

一般新段位免状
(有料の指導資格)

検定対局で取得
(棋士の仕事)

- 七段～五段: 棋道範士
- 四段～初段: 棋道修士

こども囲碁塾の開催資格
(日本棋院公認で院生塾の下部組織)

※ 別途「こども囲碁塾」開催の登録等が必要

※ 現段位免状は名誉免状の位置づけとして継続

段級位対局の復活
(段級四階位制)

1階級差: コミ3目
2階級差: 定先
(旧大手合の段位手合割りに準拠)

1. 手合割りの不合理是正
2. 粗すぎる手直りの是正

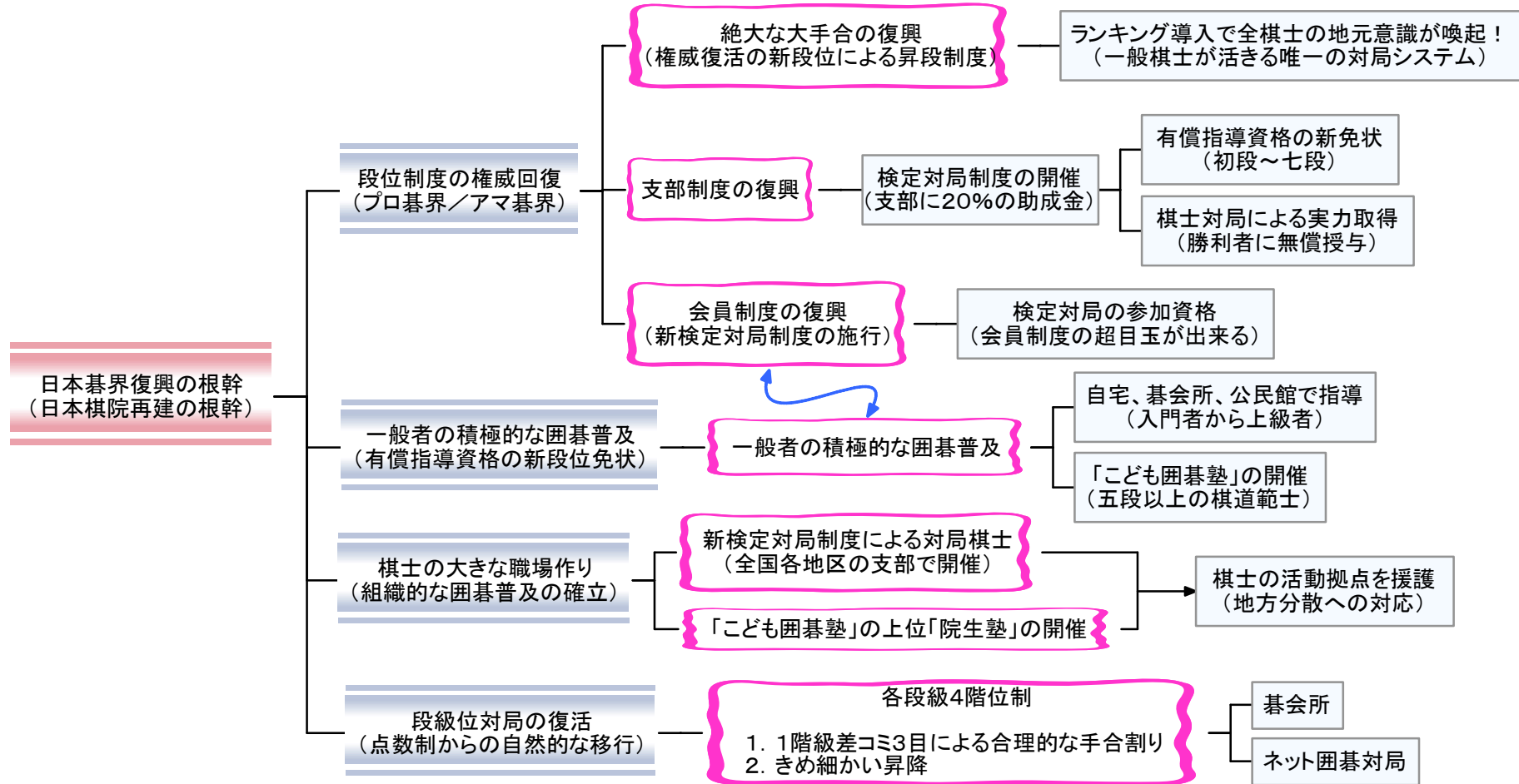
実績ピラミッド(当初)
実力ピラミッド(新大手合)

実力相応に圧縮

現昇段制度の1階級可
(偶数段位の不公平是正)

新段級位制度の絶大な効果 (プロアマ一本化による段級四階位制度)

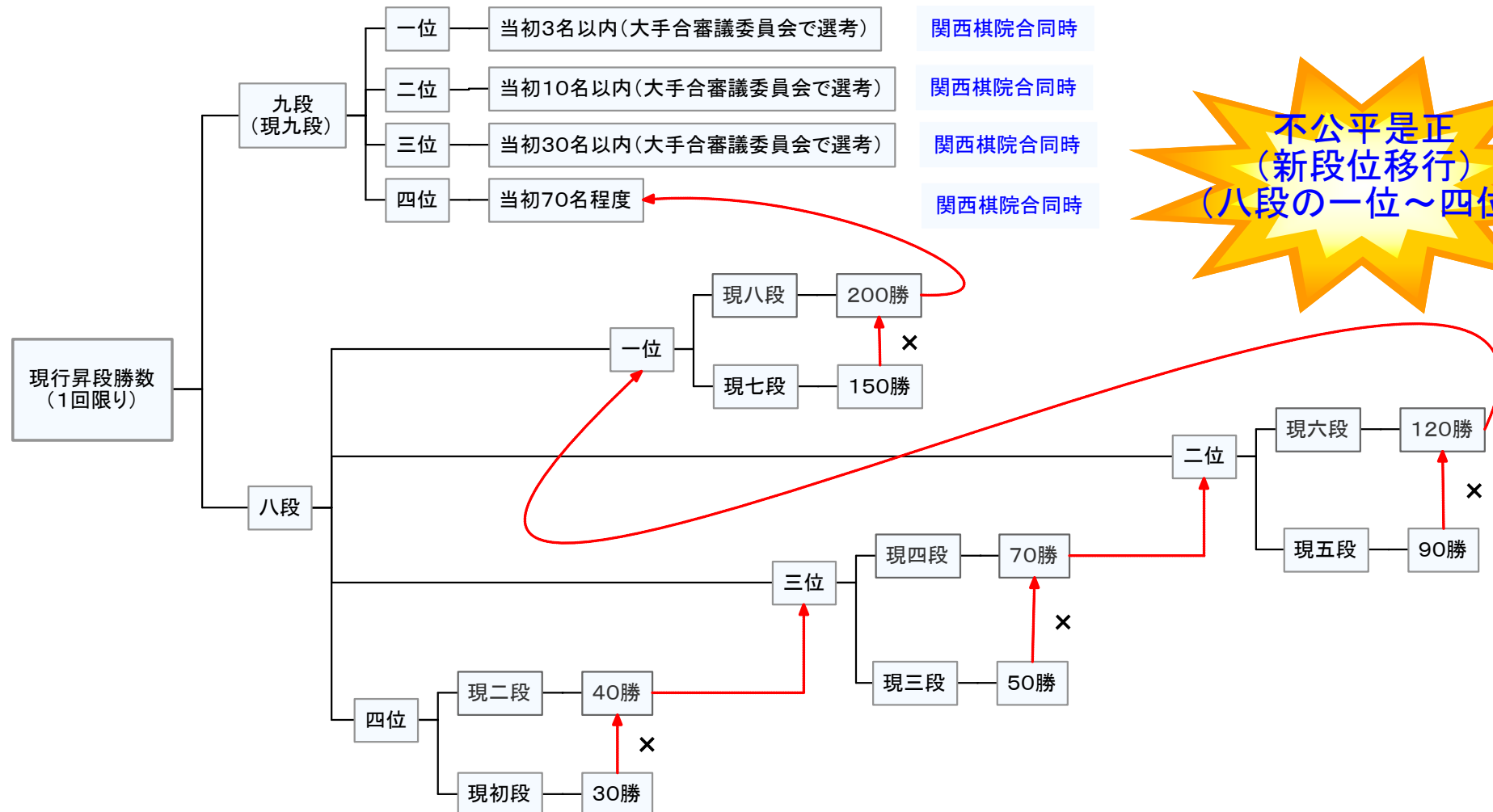
※ 大手合は棋士給与(40%カット:約2億1千万円)に対応する労働義務



新段位移行時の不公平是正

※ 八段一位～四位への現二段単位による階級不公平の是正

※ 奇数段位者(は既に1段位昇段していることから、現行昇段制度は無効)



新段位と活動基準の料金券

(書道、茶道、華道などの普及システム導入による囲碁愛好者の積極的な囲碁普及の推進)

プロ新段位				移行時点	普及活動
	段位	階位	階級		基準料金 (1時間)
棋士	九段	一位	1	3名以内	相談
		二位	2	10名以内	
		三位	3	30名以内	
		四位	4	その他 (約70名)	15000円 程度
	八段	一位	5	現八段／七段	12000円 程度
		二位	6	現六段／五段	
		三位	7	現四段／三段	10000円 程度
		四位	8	現二段／初段	

※1 九段一位～三位の人数は関西棋院合同の場合

※2 九段一位～三位は、外部による「大手合審議委員会」を設置して選考する。

※3 指導料金は基準であり実際には個別交渉

アマ新段位				検定対局料	普及活動
	段位	階位	階級	新段位免状取得	基準料金 (1時間)
棋道 範士	七段	一位	9	32000円 (合格時1万円)	5000円 以内
		二位	10		
		三位	11		
		四位	12		
	六段	一位	13	27000円 (合格時1万円)	3000円 程度
		二位	14		
		三位	15		
		四位	16		
	五段	一位	17	22000円 (合格時1万円)	2000円 程度
		二位	18		
		三位	19		
		四位	20		
棋道 修士	四段	一位	21	14000円 (合格時6千円)	1600円 程度
		二位	22		
		三位	23		
		四位	24		
	三段	一位	25	12000円 (合格時6千円)	1400円 程度
		二位	26		
		三位	27		
		四位	28		
	二段	一位	29	10000円 (合格時6千円)	1200円 程度
		二位	30		
		三位	31		
		四位	32		
	初段	一位	33	8000円 (合格時6千円)	1000円 程度
		二位	34		
		三位	35		
		四位	36		

新段級位の手合割り (新段級位対局の一般普及)

碁会所、ネット対局などで利用されている点数制から新段位への移行は簡単です

(1段級差の点数を4等分して各段級の階位を定める)

※ 新段級対局の手合割りは、対局両者の階級差で決定する。【コミの(ー)は白のコミだし】

新段位				新級位(上)			新級位(下)			一般対局の手合割り			
資格	段位	階位	階級	段位	階位	階級	段位	階位	階級	階級差	置き石	コミ	古来の対局
棋士	九段	一位	1	一級	一位	37	十級	一位	73	0	1	6	互先
		二位	2		二位	38		二位	74	1	1	3	先互先
		三位	3		三位	39		三位	75	2	1	0	定先
		四位	4		四位	40		四位	76	3	1	-3	先二先
	八段	一位	5	二級	一位	41	十一級	一位	77	4	1	-6	先二
		二位	6		二位	42		二位	78	5	2	3	二先二
		三位	7		三位	43		三位	79	6	2	0	二子
		四位	8		四位	44		四位	80	7	2	-3	二三二
一般	七段	一位	9	三級	一位	45	十二級	一位	81	8	2	-6	二三
		二位	10		二位	46		二位	82	9	3	3	三二三
		三位	11		三位	47		三位	83	10	3	0	三子
		四位	12		四位	48		四位	84	11	3	-3	三四三
	六段	一位	13	四級	一位	49	十三級	一位	85	12	3	-6	三四
		二位	14		二位	50		二位	86	13	4	3	四三四
		三位	15		三位	51		三位	87	14	4	0	四子
		四位	16		四位	52		四位	88	15	4	-3	四五四
	五段	一位	17	五級	一位	53	十四級	一位	89	16	4	-6	四五
		二位	18		二位	54		二位	90	17	5	3	五四五
		三位	19		三位	55		三位	91	18	5	0	五子
		四位	20		四位	56		四位	92	19	5	-3	五六五
	四段	一位	21	六級	一位	57	十五級	一位	93	20	5	-6	五六
		二位	22		二位	58		二位	94	21	6	3	六五六
		三位	23		三位	59		三位	95	22	6	0	六子
		四位	24		四位	60		四位	96	23	6	-3	六七六
	三段	一位	25	七級	一位	61	十六級	一位	97	24	6	-6	六七
		二位	26		二位	62		二位	98	25	7	3	七六七
		三位	27		三位	63		三位	99	26	7	0	七子
		四位	28		四位	64		四位	100	27	7	-3	七八七
	二段	一位	29	八級	一位	65	十七級	一位	101	28	7	-6	七八
		二位	30		二位	66		二位	102	29	8	3	八七八
		三位	31		三位	67		三位	103	30	8	0	八子
		四位	32		四位	68		四位	104	31	8	-3	八九八
	初段	一位	33	九級	一位	69	十八級	一位	105	32	8	-6	八九
		二位	34		二位	70		二位	106	33	9	3	九八九
		三位	35		三位	71		三位	107	34	9	0	九子
		四位	36		四位	72		四位	108	35	9	-3	

参加数			
全国戦（定員）		地区戦（非定員）	
Aクラス	Bクラス	東地区戦	西地区戦
48	72	171	190

昇段昇位：基準（新段位制度改定）

		Aクラス	Bクラス	Cクラス		
				昇位率	東順位	西順位
全国戦内 全局完了後 （飛び越し可）	九段一位	優勝 10 回				
	九段二位	優勝 5 回				
	九段三位	1				
	九段四位	24				
地区戦内 全局終了後 （飛び越し可）	八段一位		10			
	八段二位		60			
	八段三位				20	20
	八段四位				100	100

新棋士参加

		参加順位率	東幕		西幕	
			参加数	参加順位	参加数	参加順位
新棋士 (参加順位)	正規	35%	1～7	60	1～7	67
	女子枠	75%	1～3	128	1～3	143

※ 地区戦の昇位順位、および、新棋士の参加順位は小数点の四捨五入

※ 新入段棋士内の順位は、東京は成績順、関西、中部、関西棋院は年度交互順

令和 8 年 5 月時点

現役棋士総数： 481

日本棋院： 344

関西棋院： 137

	日本棋院				関西棋院	合同数
	市ヶ谷本院	大阪総本部	中部総本部	小計		
九段	60	9	14	83	30	113
八段	31	3	6	40	11	51
七段	31	9	6	46	6	52
六段	21	5	2	28	12	40
五段	17	3	4	24	13	37
四段	16	10	8	34	24	58
三段	23	5	3	31	9	40
二段	16	3	12	31	16	47
初段	16	7	4	27	16	43
小計	231	54	59		137	481
総数	344				137	481
合同総数	481					

東京： 231

全国戦暫定数： 60

東地区戦： 171

関西中部： 250

全国戦暫定数： 60

西地区戦： 190

支部アンケート集計結果(12月8日時点)

		段位制度改定											
		A案						B案					
		賛成		不明		反対		賛成		不明		反対	
		A	B	C	無回答	D	E	A	B	C	無回答	D	E
		大賛成	賛成	不明		反対	大反対	大賛成	賛成	不明		反対	大反対
個別比較	数	66	30	61	20	65	22	37	76	74	48	20	7
	比率	25%	11%	23%	8%	25%	8%	14%	29%	28%	18%	8%	3%
賛否比較	数	96		81		87		113		122		27	
	比率	36%		31%		33%		43%		47%		10%	
総数		264						262					

		新検定対局制度					
		賛成		不明		反対	
		A	B	C	無回答	D	E
		大賛成	賛成	不明		反対	大反対
個別比較	数	62	95	65	13	20	7
	比率	24%	36%	25%	5%	8%	3%
賛否比較	数	157		78		27	
	比率	60%		30%		10%	
総数		262					

送付数	回答数	回答率
831	262	31.5%

*1 段位制度改定のA案の総数が全体の回答数と異なりますが、これは、A案で複数選択があったことによります。なお、複数選択はそのまま数に加算しました。

*2

週刊基アンケート集計結果(12月12日)

		段位制度改定											
		A案						B案					
		賛成		不明		反対		賛成		不明		反対	
		A	B	C	無回答	D	E	A	B	C	無回答	D	E
		大賛成	賛成	不明		反対	大反対	大賛成	賛成	不明		反対	大反対
個別比較	数	107	25	42	35	48	45	56	69	35	73	43	23
	比率	35%	8%	14%	12%	16%	15%	19%	23%	12%	24%	14%	8%
賛否比較	数	132		77		93		125		108		66	
	比率	44%		25%		31%		42%		36%		22%	
総数		302						299					

		新大手合					
		賛成		不明		反対	
		A	B	C	無回答	D	E
		大賛成	賛成	不明		反対	大反対
個別比較	数	151	46	43	19	24	17
	比率	50%	15%	14%	6%	8%	6%
賛否比較	数	197		62		41	
	比率	66%		21%		14%	
総数		300					

		総計
		300

*1 段位制度改定のA案の総数が全体の回答数と異なりますが、これは、A案で複数選択があったことによります。なお、複数選択はそのまま数に加算しました。

*2 段位制度の項目に○印が無く、のA案／B案に○印が付いたものは、付いた項目をBとし、付いてない項目をCとして計算した。